

財団名称を新たにしてのメルマガ第1弾、心も新たにして児童文学に関する情報を、楽しく真面目に、わかりやすくお届けしたいと思っています。現在会員登録数1,075人さま。引き続きご愛読をお願いします。次号は5月20日発行の予定です／

＋----- ◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 32

《3》 サイト紹介 -子どもの本をリサーチする-

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■
【1】お知らせ

● 当財団は名称を変更し、一般財団法人に移行いたしました

財団法人 大阪国際児童文学館は、平成25年4月1日付けで「一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団」になりました。

新法人への移行、名称変更を機に、さらに、子どもの本・子どもの文化を通して社会に貢献できますよう努力を続けてまいります。今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、英文名(略称 IICLO)および所在地、電話番号等については変更ありません。理事長あいさつは、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/m2_outline/01_organization/pdf/ikougoaisatsu.pdf

● 平成25年度 子どもゆめ基金の助成が内定しました

このほど、当財団が応募していた下記3事業について、独立行政法人 国立青少年教育振興機構から「子どもゆめ基金助成金」の交付内定の通知をいただきました。助成金を有効に活かして、事業を進めてまいります。

[教材開発]

ネットで体験! 絵本づくりワークショップ

[読書活動]

むかしの紙芝居・子どもの絵本を楽しもう

おはなしモノレール

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充

てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。
お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『天才ジョニーの秘密』 エレナー・アップデール/作 こだま ともこ/訳
評論社 2012年11月 対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：11歳のジョニーは母親ウィニーと二人暮らし。父親は、第一次世界大戦で約10年前に亡くなっている。ジョニーは「背が高くなりたい人へ」の広告に応募してたまされ、今度は自分が広告を新聞に出して家計を助けるために詐欺を働き始める。一方、ウィニーはイギリスの結核治療のために尽力しようとしているラングフォード医師の家で掃除をしていたが、ある日、医師が殺されて発見され、ウィニーが犯人として逮捕される。ジョニーは母の容疑をはらすため、郵便局と雑貨店を営むハッチさんの助けを受けながら事件解明に乗り出す。

O：405ページの本でしたが、おもしろくて一気に読みました。推理・冒険・家庭小説ですね。

Y：おもしろい要素はいくつもありました。一つは、家計を助けるためにジョニーが広告文を新聞に出した詐欺行為にどう決着がつくかということでした。

O：郵便制度をうまく使って次々に繰り出す詐欺の手口がおかしくて。警察にばれて追い詰められたジョニーを待っている結末も納得してしまいました。

Y：子どもであるジョニーが、警察や村の人たちに迫害されながらも、母親を思って謎を解決したというのも子どもが大人を打ち負かすというストーリーで児童文学作品らしいと思いました。それから、もちろん、ラングフォード医師を殺した本当の犯人はだれかという謎解きもありました。

O：この物語には、第一次世界大戦後の1929年のロンドンが背景になっています。結核が死につながる病から予防法が発見されて完治できる時代に移行しており、戦勝国イギリスでも多くの兵士が亡くなったり怪我をしたりした爪痕があちこちにみられて、当時の労働者階級の人々の暮らしぶりが細部まで丁寧に描かれています。BCGが出てきたときにそれをお金儲けの道具に使おうとした人がいたという着想が成功していますね。

Y：著者はイギリスの歴史を研究していて、この作品も「なによりその時代を書きたかった」と言っています。ジョニーを助けた雑貨店のハッチさんも第一次世界大戦で負傷し、独身で店をきりもりしています。

O：推理冒険物語に見せて、実は、時代の変化を隠れテーマにした「すご技」を堪能しました。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 32

その6 絵本の読み方（7）『どろんこハリー』を読む：どろあそびを楽しむ

さて、ハリーは、いよいよどろあそびを始めます。どろあそびのページは第3、4、5、6と4画面になっていて、すべて見開きで1つずつの画面になっています。この本の中で見開きが1つの画面になって4回も反復されているのはこの場面だけですので、全体の中でこの場面がいかに重要かということがわかります。「どろんこハリー」というタイトルとも呼応している場面です。

場所は道路の工事現場、鉄道線路の橋の上、家を建築中の空き地、石炭トラックとなっていて、遊び方が少しずつ違います。そして、どろあそびになっていくようになっていきます。

道路の工事現場では、どろの水たまりの中で泳いでいるようにしています。子どもや犬たちは楽しそうにながめています、大人たちはあまり感心できないという顔をしています。

鉄道線路の上は、乗り物好きの子どもなら必ず行きたいところです。機関車から煙が上がるのを見るのは楽しいもので、すすなんか気にしてはいられません。ここで遊びに没頭していきます。

空き地では、友だちと遊ぶ楽しさが描かれています。ますます遊びに没頭しています。みんなといっしょにどろだらけになるのは格別です。

そして、最後に、石炭トラックの滑り台をします。これは汚れにおいても、遊び方のワイルドさにおいてもこれまでで一番です。周りの子どもたちは大喜びですが、多くの大人は驚いています。

すべての構図が、ハリーだけを描くのではなく、周りの風景もたっぷり描かれているため、読者も画面の中を動き回って一緒に遊ぶ楽しさを共有することができます。そして、大人の表情から少しだけこれから待っているハリーの受難を意識します。

このように4回のどろあそびが描かれている場面は、どれだけどろあそびが楽しいかをハリーと読者が共有する場面です。ですので、ゆっくりと画面を見せる必要があります。そして、ことばは、4つの変化を意識しつつ、どろあそびがどんどん盛り上がっていくさま、そして、それによって、ハリーが「しろいぶちのある ぐろいぬ」に変身してしまうさまを伝えるように読むことが重要です。

* 次号は「その6 絵本の読み方（8）『どろんこハリー』を読む：ハリー、家に帰る」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思います。（Y）

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

一次資料データベース 12 回目。ご紹介するのは以下のサイトです。

● 函館市中央図書館所蔵 ポスターコレクション

<http://www.lib-hkd.jp/digital/index.html>

サイトを運営する函館市中央図書館によると、このデジタルアーカイブは、貴重資料の利用と資料保護の両立を図るため、平成15年から順次デジタル化を進めてきたそうです。

古地図をはじめ、古文書・古写真・絵葉書などの貴重な資料群のなか、特に注目したいのは、約2,500点が収録されたポスターです。いわゆる〈一枚もの〉は、図書館や資料館でも保存対象とされることが少なく、体系的な収集・保存・公開が行われていない分野です。

例えば、ユニークな児童雑誌の広告です。〈無類飛切に面白い!〉とのキャッチコピーが踊るのは、高島華宵や川端龍子の挿絵で大正から昭和にかけて絶大な人気を誇った『日本少年』（実業之日本社）。新聞社であった時事新報社初の児童誌『少年』『少女』の広告では、新年号大附録のアピールを行っています。こうした広告の意匠からは、作り手側が当時どのように雑誌の特徴を打ち出し、いかなる読者層を主なターゲットにしていたか、その思惑が垣間見えます。

その他、神戸市立図書館児童室の利用統計ポスター（昭和8年3月から昭和9年2月の利用者数、閲覧冊数等）や、日本出版文化協会および文部省の推薦図書を通知する歴代のポスターなど、資料価値が高いものも多く掲載されています。

一方、残念なのは、発行年に不明なものが多いこと。ポスターという資料の特性上、やむを得ませんが、今後、画像の詳細確認や他資料との照合などもふまえ、より精緻なデータベース作成を期待したいところです。（J）
※次号は、一次資料データベース篇〈その13〉の予定です。

《4》 行って来ました！

明石市立文化博物館で開催されている「画家安野光雅の世界展」に行ってきました。『ふしぎなえ』のような現実には作れない絵の本、『赤いぼうし』のような数学的な本、『旅の絵本』のような風景を描いた本など、著名な作品がたくさんある安野光雅さんは、当財団のシンボルマークをデザインされた方でもあります。今回の展覧会では、5冊の本の原画が、書籍に未掲載のものも含めて120点展示されています。

1階の第1会場は『ABCの本 へそまがりのアルファベット』、『あいうえおの本』の原画が展示されています。アルファベットやひらがなが、不思議にねじれた木片を組み合わせたように描かれていて、この形が立体にできるのか考えながら見るのが楽しい絵本ですが、原画は木目や継ぎ目も本物のようで、成立するのではないかと錯覚を起こします。

2階の第2会場の最初は『空想の絵本』の原画です。次元を見る眼鏡や、虹の橋、コルク栓がされた二重の細口瓶の内側にいる悪魔の絵など、やはり不思議な空想の世界の絵に、安野さんのたねあかしのようなエッセイが添え

られています。安野さんの頭の中が映し出されたようです。

次は『繪本平家物語』です。日本画で、全体的に墨のうす暗い感じの色合いの中に、燃え上がる炎の朱色や揺れる波の深い青色がきれいです。

最後は『風景と出会い』です。ヨーロッパの風景は、平家物語とは打って変わって、柔らかい色合いでほっとします。優しい緑色の植物や木と家、港や船、街角や車の絵がたくさん描かれています。安野さんの感性に合う、描きたいと思う風景に出会ったときに描いているのだということがわかります。展示されている壁面から少し離れてぐるっと見渡すと、それぞれ違う国の風景が、どれも空でつながっているように見えました。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 講演会「あさのあつこ vs 富安陽子 子どもの本を語る」

日 時：5月11日（土）午後1時～2時30分

場 所：梅花女子大学 澤山記念館講堂（大阪府茨木市宿久庄）

参加費：無料 申込み不要

問合せ：梅花こども・絵本・児童文学センター

● 第23回 箕面手づくり紙芝居コンクール 作品募集

募集期間：募集中～5月15日（水）必着

募集規定：アマチュアの手作り作品に限る、ほか

募集部門：・ジュニアの部（作者・画家・演者とも小学生・中学生の作品）
・一般の部A部門（個人団体を問わず当コンクール入賞経験者）
・一般の部B部門

主 催：箕面市教育委員会 / 人と本を紡ぐ会

問合せ先：箕面市立中央図書館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「YO!この本読んだ？」で紹介しました『天才ジョニーの秘密』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで 件名「メルマガNO.32プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ(5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は5月10日（金）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

春とともに、当財団は「一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団」と名称

を新たにしました。これまでの名称「財団法人 大阪国際児童文学館」は、
末尾が「館」とあることから「施設」と誤解され、「大阪府立中央図書館
国際児童文学館」と混同されることもたびたび。

これを機に、当財団の業務が正しく理解され、間違った問い合わせがなくな
ることを期待しています。と、電話がルルル…「うん？図書の貸出し？
資料の閲覧？」ウチじゃないですって…。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまで
お願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
